

[宮崎県、県南地区における精神障がい者への理解促進事業]

事業目的

精神保健福祉施策の基本的方策として「入院中心から地域生活中心へ」が示されて10年が経過しました。「国民の理解の深化」を推進しようと、本県各地で精神障がい者の直接の支え手となる方への「精神障がい者理解促進のための研修会」を7年間に渡って開催してきましたが、各研修会終了後には評価を行い、改善点を見つけて修正していています。この取り組みによって、県内で精神障がい者の地域生活を直接支えておられる方々に役に立つ「研修プログラム」を作成することを目指しています。

26年度から27年度前半の活動

26・27年度は、県南地区の精神保健福祉に関する地区特性を把握すべくキーパーソンとなる方を探し、地区特性を把握した上で、どこでどのような方を対象に研修会を開催することが望まれるかの検討を重ね3回の研修会を開催しました。

研修会1

精神科中心の総合病院があるが、メンタルクリニック等は存在していないという地区特性から、行政機関窓口等で精神障がい者が生活上の困難さを訴えてきた時にどう対応できるかが、精神障がい者の地域移行を推進するカギになると判断し、日南市役所職員対象に「精神疾患の正しい理解と対応」研修会を開催しました。(31名の参加)

研修会2

第一次産業で生計を立てている家庭が多く、地域の中に精神障がい者が集う場所や施設も少なく、地域生活を継続出来る為には、家庭訪問を行って支援を行う専門職がキーパーソンであり、ヘルパー等への研修が必要と判断し、日南市社会福祉協議会職員対象に「精神疾患をどのようにみつめ、どのように支えていけばよいのか」のテーマで研修会を開催しました。(35名の参加)

研修会3

青年期・壮年期にある職業人のメンタルヘルスについて、度々研修会が開催されているにもかかわらず、こころの病による長期休職者が増加傾向にあり、重症化するケースもあるということから、青年期・壮年期にある職業人を対象に「メンタルヘルス」のテーマでの研修会を開催しました。(49名の参加)

27年度後半の活動

これまで各地で開催してきた研修会の評価を総合的に行い、「精神障がい者理解促進のための研修会」プログラムの内容を整備し、県内で精神障がい者の地域生活を直接支えておられる方々に役に立つ「研修プログラム」の作成を進めている段階です。